

地震工学委員会

平成 22 年度 第 1 回（通算第 29 回）委員総会 議事録

I 日時：平成 22 年 4 月 16 日（金） 15:00～17:00

II 場所：土木学会講堂

III 委員会設立の確認

委員総数 125 名に対して、1/2 以上にあたる 71 名が参加（出席 42 名、委任状 29 名）し、総会として成立することが確認された。

IV 配付資料

資料 29-1	平成 21 年度 第 2 回（通算第 28 回）委員総会 議事録（案）
資料 29-2(1)	平成 22 年度 地震工学委員会 委員会名簿
資料 29-2(2)	平成 22 年度 地震工学委員会運営幹事（案）
資料 29-3-1	平成 21 年度活動概要・平成 22 年度活動計画（案）について／運営幹事会
資料 19-3-2(1)-(18)	平成 21 年度活動概要・平成 22 年度活動計画（案）について／各小委員会
資料 29-4(1)-(3)	平成 21 年度活動予算執行収支報告及び平成 22 年度活動予算計画（案）
資料 29-5	平成 22 年度小委員会の新規設置について
資料 29-6	地震工学論文集の論文賞、論文奨励賞表彰について
資料 29-7	平成 22 年度全国大会研究討論会 企画書
資料 29-8	日本学術会議主催シンポジウム「自然災害軽減のための学協会の役割と課題」
資料 29-9	2010 年 2 月 29 日 チリ大地震対応について
資料 29-10	重点研究課題「建設従事者の災害緊急対応体験談の聞き取りとアーカイブ化」

V 議事

1. 開催挨拶（当麻委員長）

- 当麻委員長から、前回総会から今回総会までの間、チリ大地震・中国大地震と海外での大地震が頻発しており、対応等慌ただしい状況ではあるが、幸い国内での大災害はなく、こういうときにこそ地震工学委員会のあり方を議論されたい旨の開会挨拶が行われた。

2. 総会議長選出（橋本幹事長）

- ・ 委員からの総会議長の立候補がなかったため、事務局から松田委員を推薦し、承認された。

3. 前回議事録（案）の確認（橋本幹事長）

- ・ 承認された。

4. 平成 22 年度地震工学委員会委員会名簿および顧問推薦、新任委員（案）、運営幹事（案）について

- ・ 委員会内規により資料 29-2(2)に示す 4 氏に対して委員から顧問への推薦が当麻委員長よりなされた

- ・平成 22 年度 地震工学委員会新任委員と正副委員長および運営幹事の案が橋本幹事長よりなされた。

➤ 上記 2 点について、委員会の総意をもって承認された。

5. 平成 21 年度活動概要・平成 22 年度活動計画（案）について

- ・運営幹事会を代表して橋本幹事長から、各小委員会の代表者から、平成 21 年度の活動概要・平成 22 年度の活動計画について説明がなされた。

✓ 運営幹事会（橋本幹事長）

✓ 耐震基準小委員会（中村委員長）

✓ 地震防災技術普及小委員会（大野委員長）

→ 地震災害マネジメントセミナーテキストの合本出版企画が、出版審査会の審査を通過したので、出版に向け活動する旨が報告された。

✓ 地震被害調査小委員会（橋本幹事長）

✓ 論文集編集小委員会（本田幹事長）

→ 平成 22 年度の土木学会地震工学論文集は、投稿数が少ない場合には、投稿料のみで運営することが困難となる可能性があること、また、その場合、地震工学委員会からの資金的な援助が必要となることが報告された。

→ 今後、土木学会地震工学論文集（土木学会論文集特集号）への投稿のメリットを明確するために、地震工学研究発表会の毎年開催化についても検討すること、及び、毎年開催にあたっては、運営の効率化のため、他学会との共同開催等の可能性もあることが報告された。

✓ 日本土木史「地震工学部門」編纂小委員会（庄司幹事長）

→ 近日中に地震工学委員会の適任とされる委員に執筆依頼を行う予定であり、協力をお願いする旨の報告がなされた。

✓ 構造物と構造要素の耐震性検証のための実験技術の体系化に関する研究小委員会（五十嵐委員長）

✓ 防災企画推進小委員会（後藤委員長）

✓ 市民の視点で地震防災を考える小委員会（山本幹事長）

✓ 性能を考慮した道路盛土の耐震設計・耐震補強に関する研究小委員会（常田委員長）

✓ 免震・制震研究小委員会（松田副委員長）

✓ 地下構造物の合理的な地震対策研究小委員会（大塚委員長）

→ 小委員会での活動成果として出版物のタイトル・目次案が提示された。

➤ 「最上位となる設計基準」の意味について星隈委員より質疑がなされた。

→ 設計思想における上流側の考え方についての参考資料的な意味合いであり、表現が不適当なため、「最上位となる設計基準」という表現については削除されたい旨が大塚委員長より回答された。

➤ タイトル案の「ガイドライン」については、行政側が発行する仕様書と混同される恐れが無

いかについて大野委員より指摘がなされた。

- 「ガイドライン」には code for code と spec（仕様書，設計書）の二種の意味合いがあるため，本企画書は「ガイドライン」でも問題が無い旨，土木学会としても「示方書」，「ガイドライン」，「指針」等の使い分けについて今後審議される予定なので，その結果を反映してタイトルを変更すれば良い旨が中村委員より指摘された。
- 出版審査会に出版企画書を提出する前に，地震工学委員会総会の了解を得る必要性があるか否かについて大野委員より質疑がなされた。
- 小委員会の年度活動計画自体が総会の審議事項であるため，その出版計画も原則的に審議対象であること，出版物に関しては，各小委員会が企画したとしても，「地震工学委員会」名が記載されるため，運営幹事会には事前に相談されたい旨の回答が当麻委員長よりなされた。
- 出版物を企画する際のマニュアル・手順書について運営幹事会で整備されたい要望が大野委員よりなされた。

- ✓ 相互連関を考慮したライフライン減災対策に関する研究小委員会（庄司幹事長）
 - ✓ 地震リスクマネジメントと事業継続性に関する小委員会（吉川委員長）
 - ✓ 強震継続時間が長い地震動に対する土木構造物の耐震性検討小委員会（酒井委員）
 - ✓ 地震・津波複合災害の推定手法および対策研究小委員会（富田幹事長）
 - ✓ 石積擁壁の耐震診断・補強に関する研究小委員会（橋本幹事長）
 - ✓ リスク評価に基づく道路構造物・ネットワークの耐震設計に関する合同研究小委員会（中村委員）
 - ✓ 地震時保有耐力法に基づく耐震設計法研究小委員会【終了報告】（幸左委員長）
- 地震時保有耐力法シンポジウムが，毎年，平均 60 編・約 100 名の参加者を得て開催がなされてきた点の報告がなされた。（幸左委員長）

6. 平成 21 年度 調査研究費支出報告および平成 22 年度活動予算計画について

- ・ 研究費の支出に関しては，運営幹事会の誤認識があり，全ての行事費用に充当できないルールのため各小委員会へ研究費執行に関してご迷惑をかけた点のお詫びが橋本幹事長よりなされた。
- ・ 地震工学委員会全体として約 44 万円の行事費用の黒字が出た点に対し，次年度は地震工学委員会への研究費拡充が予想される説明が当麻委員長よりなされた。
- ・ 当麻委員長より，各行事の赤字が出ている点について，原因，経過，その他のコメント要請がなされた。
- 第 1 回 SRM&BCP シンポジウム：行事動員人数が不足した。次回は動員要請に力を入れたい。
- 地震災害マネジメントセミナー開催 10 年記念シンポジウム＋第 4 回阪神・淡路大震災学習ツアー：当初，行事に使用予定の小委員会活動補助費が，行事に使用できなくなったため。
- ・ 行事の収支については，大野委員より，各行事単位ではなく小委員会単位で決算されるよう制度に変わらねたい旨の要望が出された。
- （社）土木学会へ上記内容の要望があった点を伝える旨を当麻委員長より回答がなされた。

➤ 平成 21 年度 調査研究費支出および平成 22 年度活動予算計画について承認された。

7. 「性能に基づく橋梁の耐震設計法に関する研究小委員会（仮称）」の設立について

- ・ 星隈委員より設立趣旨の説明がなされた。
 - ・ 設立趣旨の中にあった地震時保有耐力法シンポジウムの継続に関して、新委員会のシンポジウムと併せて年 2 回開催する予定であるか、大塚委員よりに質疑がなされた。
- 名称は未決定であるが、地震時保有耐力法シンポジウムを引き継ぐ形で年 1 回のシンポジウム開催を予定しているという回答が星隈委員よりなされた。

➤ 新小委員会の設立について承認された。

8. 地震工学論文集の論文賞、論文奨励賞表彰について

- ・ 当麻委員長より各表彰の経緯・結果について説明がなされ了承された。

9. 平成 22 年度全国大会研究討論会 企画書について

- ・ 橋本幹事長より平成 22 年度全国大会研究討論会の企画として「チリ大地震被害の現状と今後の課題」を計画している旨が説明された。
- 吉川委員より「地震リスクマネジメントと事業継続性に関する小委員会」にても研究討論会を企画しており、企画書が全国大会事務局に受理されている旨の報告があった。
- 調整に不備があった点のお詫びと全国大会事務局に確認をする旨の回答が橋本幹事長よりなされた。但し、今後は全国大会研究討論会の企画書提出を地震工学委員会として運営幹事会が一本化していきたいと考えている旨の説明が橋本幹事長よりなされた。

10. 「自然災害軽減のための学協会の役割と課題」の報告

- ・ 当麻委員長より上記シンポジウムに参加した際の報告がなされた。本シンポジウムにて、各学協会が連携して議論していく企画会議を継続して開催する旨の同意採決がなされた点が報告された。

11. 2010 年「チリ地震合同調査団」派遣について

- ・ 2010 年 2 月 27 日に南米チリで発生した巨大地震に対して、(社)土木学会・日本地震工学会・(社)地盤工学会・(社)日本建築学会合同で調査団が派遣された旨、および、調査団が無事帰国し 4 月 20 日に報告会が開催される旨が当麻委員長より報告された。

12. 重点研究課題「建設従事者の災害緊急対応体験談の聞き取りとアーカイブ化」

研究計画通過について

- ・ 後藤委員より、「建設従事者の災害緊急対応体験談の聞き取りとアーカイブ化」が、(社)土木学会が企画している重点研究課題の審査を通過した旨の報告がなされた。

13. 閉会挨拶（清野副委員長）

➤ 清野副委員長から、小委員会活動が活発になされており今後も継続されたい旨、中国の大地震

関係で今後地震工学委員会に何らかの要請があることが想定されるため各委員に協力を願いたい旨の閉会挨拶が行われた。

14. その他

- ・ 今回総会で幹事を退任される橋本幹事長，運上委員，幸左委員，本田委員，堺委員へ感謝の意を表した拍手をもって総会が閉会された。

(作成者：藤原)